

平成19年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

表現に関する内容を統合した教科を創設し、感じる心を大切にしながら豊かな表現力の育成を目指した研究開発

2 研究の概要

豊かな表現は、集団の中での存在感や自己肯定感、自然や美しいものに感動する心や創作する喜びによって支えられる。そこで、集団の中での存在感や自己肯定感を高め、他との交流・コミュニケーションを円滑にしながら自分を表現していく時間「キラリ科」を全学年で設定し、表現力の育成を軸にした教育課程を編成する。

具体的には、表現する楽しさを味わわせ、言葉や身体などで表現する基礎的な技能を身に付けさせるために、児童の想像力を働かせて思いをかたちにしていく過程を大切にしながら教材や指導方法について研究を進める。また、他の教科等との連携を図り、さまざまな表現に出合う機会を設けたり、学年の発達段階に合った劇を創作し発表させたりしながら、自分らしさを発揮して生き生きと表現できる児童を育てる方策を探る。

3 研究の目的と仮説等

(1) 研究仮説

- ① 身近な環境の中でいろいろな人や自然にかかわる体験活動や、読書などの活動を重視し、それらの活動を通して心に残ったことや想像したことを演劇的な方法で心情豊かに表現するための時間として、「キラリ科」を全学年に設定する。
- ② 「キラリ科」では、演劇的な活動を通して、楽しみながら想像力を働かせて表現する力を養う。活動の中で相手や登場人物の気持ち、場の雰囲気、表現物のテーマ、共に演じる仲間の気持ちなどについて考える機会をもつことで、他人の気持ちを想像できる児童を育てる。
- ③ 「キラリ科」では、貴重な経験の一つとして専門家による音楽や演劇などの鑑賞を行う。自分たちが行う表現とは違う表現活動に出合わせるにより、美しさ、楽しさ、素晴らしさなどを感じ取らせる。そして、その表現の技法を模倣したり、アレンジしたりして意図をもって自分の表現に取り入れようとする児童を育てる。
- ④ 「キラリ科」や他の教科で培った多様な表現力を生かし、学年に応じた劇を創作し、発表する。そこでは、一人一人が役を演じるとともに、音楽、振り付けなど自分たちで表現の工夫を行い、自己実現の場とする。また、各学年の演劇を鑑賞し、それぞれの表現のよさ、工夫などを見つけ、認め合う機会とする。さらに、保護者や地域の方を招き、児童を育てる立場の人たちが、表現することの素晴らしさを感じたり、児童のよさを見つけたりする場とし、地域への表現活動の発信とする。
- ⑤ 国語科や音楽科、図工科だけでなくすべての教科で表現力を培い、それらを関連させて表現する力を高める。
- ⑥ 自己表現力は、集団の中での存在感や自己肯定感によって支えられる。支持的な人間関係を作るための学級経営を行い、他の人を思いやる児童を育てる。

以上のことから、人間の行動や芸術などのよさや美しさを感じ取ろうとする態度を育て、感じ取ったことを基に自分の思いや意図を持って言葉や身体などで創造的に表現する力を伸ばすことができるであろう。また、集団の中での存在感や自己肯定感を高め、他とのコミュニケーションを円滑にする力も身に付けることができるであろう。

そして、これらは、今求められている豊かな人間性の育成の基盤となるものであると考える。

(2) 教育課程の特例

- ① 「キラリ科」の時間を全学年年間70時間程度設定する。
- ② 国語科、音楽科、図工科、体育科、総合的な学習の時間または生活科、特別活動の時間より削減する。(別紙1)

4 研究内容

(1) 教育課程の内容

二年代までの「キラリ科」の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取り扱いについて検証授業を通して見直しを図った。

本校で研究開発する「キラリ科」は、演劇的な表現活動を通して、次のような資質・能力や態度を育むことを目的として設定する。

- (1) 表現のよさや美しさ、面白さなどを感じ取る
- (2) 想像力を働かせ、思いのままに表現する
- (3) 個性を発揮し合い、創造的に劇をつくる
- (4) よりよい人間関係をつくろうとする

指導の内容は、「A表現」と「B鑑賞」の2領域とし、次のように構成する。

A 表現	B 鑑賞
(1) 他者と進んでかかわること ア 相手に集中することに関すること イ 心身をリラックスしてやり取りをすること ウ 互いの表現のよさを見つけること (2) 思いのままに表現すること ア 体全体の感覚を使って相手を感じ取り、表現すること イ 表したいことや設定に応じた動作や感情を即興的に伝えること (3) 演劇をつくること ア 脚本作りに関すること イ 言語による演技に関すること ウ 非言語による演技(視線,表情,動作,立ち位置など)に関すること エ 舞台づくり(大小道具,音響,衣装,照明等)に関すること	(1) 演劇を鑑賞すること ア 児童にとって親しみやすい作品の鑑賞

[キラリ科の目標],[各学年の目標及び内容],[指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い]を以下に示す。

[キラリ科の目標]

演劇的な表現や鑑賞の活動を通して、表現のよさや美しさ、面白さなどを感じ取るとともに、想像力を働かせ思いのままに表現したり、個性を発揮して創造的に表現したりする能力を養い、よりよい人間関係をつくろうとする態度を育てる。

[各学年の目標及び内容]

[第1学年及び第2学年]

【 目標 】

- (1) 優れた演劇や音楽、友達の演技などを見たり聴いたりすることに関心を持ち、その楽しさを味わうようにする。
- (2) 身の回りの事物や言葉などから、感じたことや想像したことを即興的に表現する楽しさを味わわせ、体全体の感覚や技能を働かせるようにする。
- (3) 物語や詩、脚本などを読んで、場面の様子や人物の気持ちを想像し、台詞や動作などで表現することができるようにする。
- (4) 相手や場に応じて楽しく言葉や動作で表現することができるようにするとともに、進んで他者にかかわろうとする態度を育てる。

【 内容 】

「A 表現」

- (1) 場面や相手に応じて楽しくやり取りできるようにするために、次の事項について指導する。
 - ア 相手の目を見て、話したり聞いたりすること。
 - イ うなずいたり、相槌を打ったり拍手をしたりしながらやり取りすること。
 - ウ 友達の表現のよさや面白さを見つけてやり取りすること。
- (2) 感じたことや想像したことを思いのままに表現できるようにするために、次の事項について指導する。
 - ア 身の回りにあるものの感じや動き、人の気持ちを想像して、即興的に表情や動作、台詞などで表すこと。
- (3) したことや見たこと、物語を読んだことなどから想像を広げて台詞や動作などで表せるようにするために、次の事項について指導する。
 - ア 人物の気持ちや場面の様子を想像して、簡単な台詞を考えること。
 - イ 姿勢や口の形、間の取り方、強弱に気を付け、はっきりとした発音で、気持ちや様子を思い浮かべながら読んだり話したりすること。
 - ウ 人物の気持ちや場面の様子を想像して動作や表情を工夫すること。
 - エ 手に持つ道具や身に付けるものなどを工夫すること。

「B 鑑賞」

- (1) 演劇などを見ることに関心をもつように、次の事項について指導する。
 - ア 児童にとって親しみやすい演劇の作品を見たり聴いたりして、表し方のよさや面白さを見つながら、楽しく見ること。

[第3学年及び第4学年]

【 目標 】

- (1) 優れた演劇や音楽、友達の演技などのよさや美しさに関心をもって見たり聴いたりするとともに、それらに対する感覚などを高めるようにする。
- (2) 身の回りの事物や言葉などから感じたことや想像したことを体全体の感覚や技能を働かせて表現する楽しさを味わわせるとともに、率直に表現する能力を伸ばすようにする。
- (3) 体験したことや物語などをもとに想像を広げながら、登場人物の台詞や動作などを考えて役作りをしたり、場面の移り変わりを考えたりして演劇をつくることができるようにする。
- (4) 相手や場に応じて楽しく適切に言葉や動作で表現できるようにするとともに、他者の個性を認め、進んで他者にかかわろうとする態度を育てる。

【 内 容 】

「A 表現」

- (1) 場面や相手に応じて楽しく適切にやり取りできるようにするために、次の事項について指導する。
 - ア 相手の目や話題にしているものを見て、話したり聞いたりすること。
 - イ 共感的に相手を受け止める表情や動作を伴ってやり取りすること。
 - ウ 互いの表現の違いや特徴などを考えながら進んでやり取りすること。
- (2) 感じたことや想像したこと、伝えたいことを思いのままに表現できるようにするために、次の事項について指導する。
 - ア 身の回りにあるものの感じや動き、人の気持ちを体全体の感覚を使って想像し、言葉や身体で表現すること。
 - イ 色や絵、音や音楽などから発想して、簡単な物語を作り、即興的に動作や台詞などで表すこと。
- (3) したことや見たこと、物語を読んだことなどから想像を広げて演じるようにするために、次の事項について指導する。
 - ア 体験したことや想像したこと、物語などの中から、登場人物の設定や場面の移り変わりを考えて簡単な物語や脚本を作ること。
 - イ 間の取り方、強弱などに気を付けて、気持ちや様子が伝わるように読んだり話したりすること。
 - ウ 物語や脚本に書かれている登場人物の行動や気持ちを読み取り、人物の性格や他の人とのかかわりなどを想像して、表情や動作に気を付けて演じること。
 - エ 必要な道具や音響、衣装などを工夫すること。

「B 鑑賞」

- (1) 演劇のよさや面白さなどに関心をもって見るように、次の事項について指導する。
 - ア 親しみのある演劇の作品を見たり聴いたりして表し方の多様性に気付き、それぞれの表現方法の面白さや美しさに関心をもって見ること。

〔 第5学年及び第6学年 〕

【 目 標 】

- (1) 優れた演劇や音楽、友達の演技などを進んで鑑賞し、そのよさや美しさを感じ取り、感性を高めるとともに、自分の表現に生かすようにする。
- (2) 身の回りの事物や言葉などから感じたことや想像したことを体全体の感覚や技能を働かせて表現する楽しさを味わわせるとともに、的確に表現する能力を高めるようにする。
- (3) 体験したことや物語などをもとに想像を広げながら、表現しようとする役柄や状況を設定し、台詞や動作などをつくるとともに、立ち位置や、道具、効果音などを工夫して、効果的に舞台づくりをすることができる。
- (4) 相手や場に応じて楽しく適切に言葉や動作で表現できるようにするとともに、互いの個性を認め、共通の目的を達成するために、自分の考えを伝えようとする態度を育てる。

【 内 容 】

「A 表現」

- (1) 場面や相手に応じて楽しく適切にやり取りするようにするために、次の事項について指導する。
 - ア 相手の目や話題にしているものを見て、話したり聞いたりすること。
 - イ 共感的に相手を受け止める表情や動作を伴ってやり取りすること。
 - ウ 互いの表現のよさや特徴などを考えながら進んで話し合うこと。
- (2) 感じたことや想像したこと、伝えたいことを思いのままに表現するようにするために、次の事項につ

いて指導する。

ア 身の回りにあるものの感じや動き、心情などを体全体の感覚を使って想像し、言葉や身体で表現すること。

イ 体の感覚を意識しながら、表したいものの特徴をとらえて表現すること。

(3) したことや見たこと、物語を読んだことなどから想像を広げて演劇的表現をつくったり、脚本を使って演じたりするようにするために次の事項について指導する。

ア 体験したことや想像したこと、物語などの中から、伝えたいテーマを決め、登場人物の設定や場面の展開を考えて脚本を作ったり脚色したりすること。

イ 視線や表情、間の取り方、強弱などに気を付けて、気持ちや様子が伝わるように読んだり話したりすること。

ウ 物語や脚本に書かれている登場人物の気持ちや場面の様子を読み取り、人物の性格や他の人とのかかわり、育った環境などを想像して、表情や動作に気を付けて演じること。

エ 道具や音響、衣装や照明などを効果的に活用すること。

「B 鑑賞」

(1) 演劇のよさや面白さなどに関心をもって見るように、次の事項について指導する。

ア 親しみのある演劇の作品を見たり聴いたりして表現方法の面白さや美しさに関心を持ち、表現の意図や効果を考えるとともに想像を広げること。

〔キラリ科の指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い〕

(1) 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- 演劇的な活動として①コミュニケーションゲーム、②表現遊び・劇遊び、③劇づくり、④鑑賞の4つの活動を行う。
- 各学年の内容については、児童の実態などを考慮し、2学年毎にまとめた。内容については、最初の学年において、学習活動の程度が高くないようにすること。
- 各学年の内容「A表現」の(1)、(2)、(3)の指導については、低学年では、(1)、(2)を重点的に扱い、中学年、高学年になるにつれて、(3)の割合が増えるように演劇的な活動を配置すること。
- 生活科や総合的な学習の時間の体験活動と結んで、内容相互の関連を図るよう工夫すること。
- 音楽科や体育科、図工科との関連を図り、多様な表現方法を工夫したり、効果的に劇づくりをしたりできるようにすること。
- よりよい人間関係を育成するために、道徳や特別活動の時間、給食の時間等との関連を図り、指導の効果を高めるようにすること。

(2) 内容の取り扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- 「A表現」の(1)の内容については、ア、イ、ウのねらいが児童の実態を考慮し、無理なく身に付くよう、ゲームの要素を取り入れた学習を行うようにすること。
- 「A表現」の(1)、(2)、(3)は相互に関連を図り、(1)、(2)で学習したことが(3)で生かされるようにすること。
- 「B鑑賞」の内容については、劇団が行う演劇を鑑賞する場合と、鑑賞会として児童が行う演劇を鑑賞する場合とすること。
- 「A表現」の(2)の内容については児童のイメージや表現を肯定的に捉え、共感的な指導をし、表現への抵抗感を抱かないように配慮すること。

(3) 「A表現」の(3)の教材として扱う物語や詩は、次のような観点に配慮して取り上げることとする。

- 演じることによって、やり取りする力、想像力や言語感覚を養うのに役立つこと。
- 公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役立つこと。

- 生活を明るくし、強く正しく生きる態度を育てるのに役立つこと。
 - 生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。
 - 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。
 - 我が国の文化と伝統に対する理解と愛情を育てるのに役立つこと。
 - 世界の風土や文化などに理解をもち、国際協調の精神を養うのに役立つこと。
- (4) 指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
- イメージをもたせ、やり取りしながら表現する力を高める指導を工夫すること。
 - 学年の発達段階や特性に合った劇づくりの指導方法を工夫すること。
 - 自己肯定感の低い児童に特に配慮し、指導を工夫すること。
 - 児童の学級や学校での人間関係を把握して指導に努めること。
- (5) キラリ科で学習した指導内容が児童の日常生活に生かされるように、生徒指導との関連を図り、学校生活全体の中で人間関係をつくる力を育むように環境や体制を整えるようにする。また、家庭や地域社会との共通理解を深め、授業の実施や発表会保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を得るなど相互の連携を図るよう配慮する。

(2) 研究の経過

	実施内容等
第1年次	1 3年間を見通した研究計画及び研究の構想と研究組織づくり 2 児童における表現力の実態調査 3 表現力に関する職員研修 4 「キラリ科」についての研究 ・「キラリ科」を教育課程の中に位置づける理論研究 ・「キラリ科」において身に付けたい資質や能力の選定 ・「キラリ科」の教材開発, 単元構成 ・「キラリ科」の提案授業を通じた試行 5 朝の活動での表現活動の研究(音声言語) 6 キラリ科を支える環境の整備
第2年次	1 「キラリ科」において身に付けたい資質や能力の明確化 2 検証授業を通して「キラリ科」のカリキュラム研究 (1) 教材開発, 単元構成 (2) 評価規準の作成及び評価法の研究 (3) 年間指導計画の作成 3 国語科の教科書の物語等を活用した教材開発 4 「キラリ科」と連携した他教科, 総合的な時間の授業研究 5 朝の活動での多様な表現活動の研究(音声言語) 6 「学び合う集団」づくりを目指す学級経営の研究 7 学習環境の整備(指導案, 学習教具, ワークシート等) 8 中間発表会 9 研究の見直しと修正
第3年次	1 「キラリ科」の有効性についての実証研究(児童の変容) 2 「キラリ科」単元の見直しと修正 3 多様な表現方法を生かした演劇等の制作 4 家庭, 地域との連携 5 研究発表会 6 研究のまとめ(成果と課題)

(3) 評価に関する取組み

	評価方法等
第1年次	1 本事業における評価 (1) 表現意欲に関する調査(7月, 12月 全学年児童 教師 保護者) (2) 学習状況調査の実施(県4月 4~6 学年, 町4月 2~6 学年)と結果分析(8月) (3) 運営指導委員による所見をもとにした評価(7月, 1月) (4) 公開授業による保護者の評価(11月) (5) 公開研究会による参観者からの評価(2月) (6) 道徳性検査(3学年) 2 「キラリ科」の学習評価 (1) 児童の自己評価等の記録の蓄積 (2) 教師の指導記録及び通知表「学びのたより」への記録 (3) 提案授業での検証
第2年次	1 本事業における評価 (1) 表現意欲に関する調査(7月・12月 全学年児童 教師 保護者) (2) 学習状況調査の実施(県4月 4~6 学年, 町4月 2~6 学年)と結果分析(8月) (3) 運営指導委員による所見をもとにした評価(7月, 1月) (4) 公開授業による保護者の評価 (5) 公開研究会(中間発表)(11月)による教員の評価 (6) 道徳性検査(4学年), 学級集団検査(3, 5学年) 2 「キラリ科」の学習評価 (1) 児童の自己評価等の記録の蓄積 (2) 提案授業での検証 (3) 表現の技能を客観的に評価する方法及び評価規準の作成 (4) 教師の指導記録及び通知表の記録
第3年次	1 本事業における評価 (1) 表現意欲に関する調査(7月・12月 全学年児童, 教師, 保護者) (2) 学習状況調査の実施(県4月 4~6 学年, 町4月 2~6 学年)と結果分析(8月) (3) 運営指導委員による所見をもとにした評価(7月, 1月) (4) 学級経営の児童評価, 教師評価 (5) 公開研究会(10月) (6) 道徳性検査(5学年), 学級集団検査(全学年) 2 「キラリ科」の学習評価 (1) 児童の自己評価等の記録の蓄積 (2) 教師の指導記録及び通知表の記録 (3) 提案授業での検証 (4) 「キラリ科」の学習と児童の人間関係構築への効果を客観的に調査

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

① 児童への効果

ア 児童のキラリ科への関心は高く、積極的に取り組み、生き生きと表現する態度が見られた。

アンケート調査の結果、キラリ科を肯定的にとらえている児童は、およそ90%にのぼっている。「楽しいし、自分を演じられる。」「ふだん話さない友達とも協力できた。」「来年度も続けてほしい。」などの理由を挙げている。

イ キラリ科を通して身に付けたい資質や能力がほぼ身に付いてきている。

【 感じ取る力について】

- 役柄の性格や気持ち、場面の様子などを思い浮かべることができるようになってきた。
- 友達の表現のよさや美しさ、面白さを感じ取る力が伸びた。
- 他者の気持ちに共感したり、美しいものに感動したりする感性が豊かになった。

【 表現する力 】

◆表現への関心・意欲・態度について

○ キラリ科を通して、児童の人前で表現しようとする意欲が向上した。また、表現する際、相手を意識しようとする態度が育ってきた。

◆思いのままに表現すること、創造的に劇をつくることについて

○ 登場人物の気持ちを想像したり様子を思い浮かべたりして、自分自身が役柄になりきって表現しようとする意識が高まるとともに気持ちを込めた演技ができるようになった。

○ 観客に伝わるような舞台の効果的なつくり方や演技のこつなどに気付き、表現技能が向上した。

○ 絵や文章からイメージを広げ、簡単な物語を創作したり脚本を作ったりする力が伸びた。

○ 体全体を使って表現することを楽しみ、劇やジェスチャー、ダンス、歌などさまざまな表現に親しもうとする意欲が向上した。

【 よりよい人間関係をつくる態度 】

○ 自分の思いをはっきり伝えたり、相手を理解しようとしながら聞いたりして、友達と進んでかかわろうとするようになった。

○ 自分の役割に責任をもち、個性を発揮しながら協力し合って活動しようとする意識が高まった。

【 その他の効果 】

○ 学校、学級での生活への満足感が増した。

○ 国語科において場面の様子を想像豊かに読み取ることができるようになってきた。

○ 絵画を想像豊かに鑑賞する力や態度が向上した。

② 教師への効果

○ 個々の児童への理解が深まった。

○ 子どもと共に表現を楽しもうとする態度など、教師としての資質が向上した。

③ 保護者への効果

○ 家族間での会話の時間が増えた。

○ 子どもの成長(変容)を見る目がより温かく細やかになってきた。

○ 表現活動を様々な視点から見るできるようになった。

※実施の効果の詳細については自己評価書に記載

(2) 研究実施上の問題点と今後の課題

1 教育課程について

低学年では、35 時間という長時間を生活科からキラリ科へ移行した。大幅な時間削減のため、生活科の目標が十分達成できたとは言い難い。ただし、15 時間から 20 時間程度の削減であれば、生活科とキラリ科の両方の目標が達成できると判断する。

2 指導内容・方法について

(1) 日常の「話すこと」「聞くこと」の指導は、相手を尊重し受け入れるという意識で、絶えず行われなければ効果が上がらないと思われる。

(2) 演劇、音楽、ダンスの指導は、専門的な技能が必要とされる。教師の研修が必要である。また、ゲストティーチャーとして演劇教育に携わる方に、児童へ直接指導をいただいたことが、児童にとって実りある学習だったことから、欧米の学校にあるよう、ドラマティーチャーを配属できればよいと考える。

(3) よりよい人間関係の態度への効果は、学級・学年によるばらつきが見られた。キラリ科の指導に限らず、普段からの学級経営の力をより一層磨く必要がある。

(4) 表現を強要するのではなく、表現しなくてもいいという安心感をもたせたり、表現は面白いと思えるような支援を教師が身に付けたりする必要がある。

(5) 児童の内面的な高まりを理解して指導すること留意しておく必要がある。

3 施設・設備について

キラリ科の学習活動の場として、広い部屋が必要である。プレイルームのように広いスペースが一部屋あれば、より効率的に学習できる。

綾川町立陶小学校 教育課程表（平成19年度）

	各教科の授業時数									道徳	特別活動	総合的な学習の時間	キラリ科	総授業数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育					
第1学年	252		114		72	66	66		88	34	30		60	782
	-20				-30	-2	-2		-2		-4		+60	
第2学年	258		155		70	68	67		87	35	30		70	840
	-22				-35	-2	-3		-3		-5		+70	
第3学年	212	70	150	70		56	56		86	35	30	70	75	910
	-23					-4	-4		-4		-5	-35	+75	
第4学年	212	85	150	90		56	56		86	35	30	70	75	945
	-23					-4	-4		-4		-5	-35	+75	
第5学年	157	90	150	95		46	46	60	86	35	30	75	75	945
	-23					-4	-4		-4		-5	-35	+75	
第6学年	152	100	150	95		46	46	55	86	35	30	75	75	945
	-23					-4	-4		-4		-5	-35	+75	
計	1243	345	869	350	142	338	337	115	519	209	180	290	430	5360

学校等の概要

1 学校名, 校長名

学校名 あやがわちょうりつすえしやうがっこう 綾川町立陶小学校 校長 みよしたか お 三好隆大

2 所在地, 電話番号, FAX番号

所在地 香川県綾歌郡綾川町陶5878-1
TEL 087-876-1182
FAX 087-876-4713

3 学年別児童数, 学級数

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援 学級	計
児童数	68	53	70	62	70	61	2	386
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14

4 教職員数

校長	教頭	教諭	養護 教諭	講師	実習 助手	ALT	スケー ルカウ ンセラー	事務 職員	司書	計
1	1	17	1	2	0	0	1	1	0	24